

基礎工学部・基礎工学研究科

I	研究水準	研究 10-2
II	質の向上度	研究 10-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、著書・論文等の執筆状況は、平成 16 年度から平成 18 年度に 400 件～650 件で推移しており、受賞件数は 35 件前後で、教員一名当たり約 0.2 件となっている。特許の出願数は、平成 18 年度 50 件に達している。研究資金の獲得状況について、科学研究費補助金の採択金額が 6 億円を超えるほか、その他の競争的外部資金も 5 億円を超えるなど高い獲得水準にある。未来研究ラボ長及び外部資金獲得教員にオープンラボスペースを確保しているほか、全学横断的な教育・研究組織にもスペースを提供していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、基礎工学部・基礎工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、基礎工学部・基礎工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、複合学際研究の創設として、21 世紀 COE プログラム「物質機能の科学的解明とナノ工学の創出」において優れた研究成果が上がっている。複合学際・萌芽的プロジェクト研究を進める、未来研究ラボシステムから移植用培養組織のポテンシャル評価ラボ等複合学際的な研究で成果が上がっている。これらの成果

は多くの学会賞等を獲得している。社会、経済、文化面でも、ビジュアルインフォメーションシステムや次世代ヒューマンインターフェース構築などで成果が上がっていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、基礎工学部・基礎工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、基礎工学部・基礎工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 2 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。